

まちとアートの 仲人たち

劇場や美術館、ホール等を飛び出して、
地域そのものを舞台に展開する創作／発表活動も珍しくなくなりつつある現在。

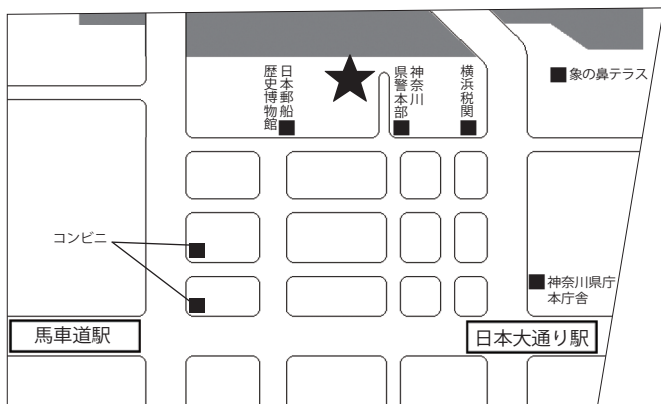
地域とともに作品を生み出し育てる活動が注目されています。
まちとアートのつなぎ手にはどのような役割が求められているのでしょうか。

四つの異なる立場のゲストを招き、
地域で展開するアートプロジェクトの未来を考えます。

☆ ☆ ☆

2018.2.18(SUN)
11:00-13:00 参加無料

BankART Studio NYK 2F 2B
横浜市中区海岸通3-9



みなとみらい線「馬車道駅」6出口 [赤レンガ倉庫口] 徒歩4分

GUEST

石神夏希 (ペピン結構設計)

1999年より劇団・ペピン結構設計を中心に劇作家として活動。
慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修了。近年は横浜を拠点に
国内各地や海外に滞在し、都市やコミュニティを素材にサイトスペシ
フィックな演劇やアートプロジェクトを手がける。またNPO法人
『場所と物語』理事長、伊勢佐木町で遊休不動産を活用したクリエイティブ
拠点『The CAVE』の立ち上げなど、空間や都市に関するさまざまな
プロジェクトに携わる。

宮武亜季 (居間 theater / PARADISE AIR)

1987年兵庫県生まれ。大学在学中より舞台芸術の制作やコーディネート
をはじめ。『急な坂スタジオ』、『としまアートステーション構想』事務局
を経て、2017年より松戸市のアーティスト・イン・レジデンス「PARADISEAIR」
運営に携わる。日常のふるまいとパフォーマンスを掛け合わせ、多様な人や
場所と関わる作品を作り出すプロジェクト「居間 theater」メンバー。

宮永琢生 (ままごと)

1981年東京都生まれ。劇団「ままごと」プロデューサー。「喫茶ままごと」
マスター (休業中)。企画制作ユニット「ZuQnZ (ズクンズ)」主宰。
平田オリザが主宰する「青年団」の制作に携わり、2009年に劇作家・演出
家の柴幸男と共に劇団「ままごと」を立ち上げる。以降、「ままごと」作品
の創作・プロデュースを中心に、近年は《観客との関係性》に軸を置いた
演劇活動を積極的に行っている。2018年、東京と小豆島との二拠点活動を
はじめる予定。こんどは島の図書館をつくりたい。

横井貴子 (フェスティバル / トーキョー実行委員会事務局)

日本大学芸術学部演劇学科卒業。フェスティバル / トーキョー制作・人材育成
担当。大学在学中からロロや風琴工房の公演制作、「えだみつ演劇フェスティ
バル2013」事務局など制作業務を開始。黄金町バザール2014「演劇センターF:
演劇パビリオン」での拠点運営、事業企画を経て、2015年よりフェスティバル/
トーキョー実行委員会に勤務。サポーター、インターン事業、合宿ワークショップ
などの企画制作を行う。

ヨコハマアートサイトとは?

横浜市地域文化サポート事業・ヨコハマアートサイトは、
地域課題の解決につなげる文化芸術活動をサポートする
ため、文化芸術の持つ創造性をコミュニティやまちの活性化
と結びつける文化芸術活動や、横浜の個性ある文化芸術を
市内外へ発信する活動を広く公募し、支援する事業です。

<http://y-artsite.org>